

限られた投資先を回り続ける中国の投資マネー
～次の流入先候補として、本土株式に注目～

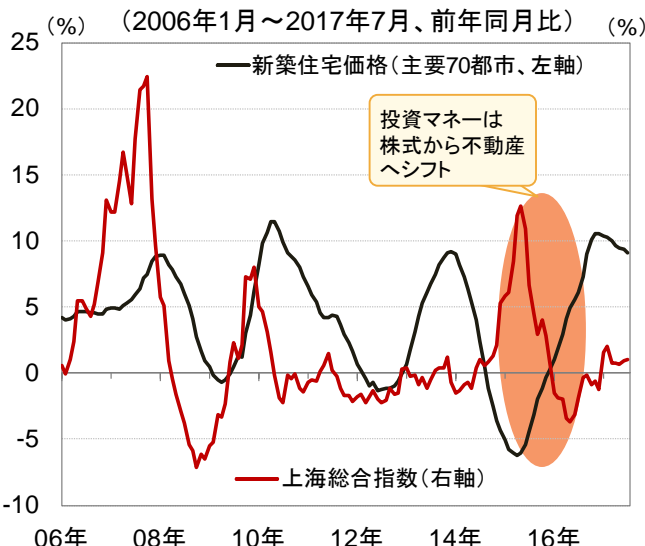
楽読(ラクヨミ)

中国景気の持ち直しなどを背景に、年初以降、香港や韓国、台湾、東南アジアの株式が一本調子で上昇しました。特に香港は、ハンセン指数が昨年末比で20%を上回る(8月18日時点)上昇となっており、世界的に見ても株価上昇が顕著です。この背景の一つに、香港市場への中国本土の投資マネー流入があるとされています。

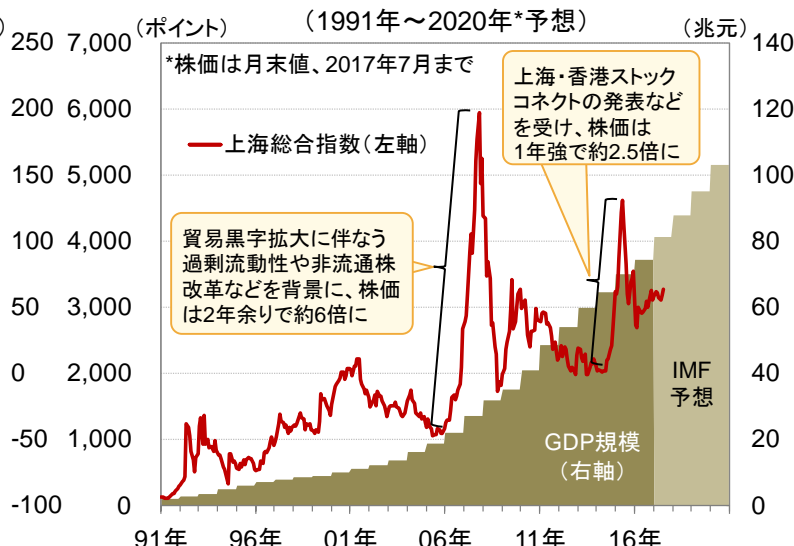
中国本土では、景気減速が鮮明になった2014年以降、不動産市況の下支えに向け、利下げや住宅ローンの利用規制の緩和が繰り返されました。加えて、2014年半ばから約1年続いた株価急騰が終わったこともあり、2015年後半以降、不動産への投資マネーの流入が膨らみました。その後、沿海部の大都市を中心に不動産市況が急上昇を続け、バブル懸念が台頭すると、金融引き締めや地方政府による規制などが繰り返されるようになり、足元では不動産市況の上昇は鈍化傾向にあります。加えて、中国本土の株価は、2016年2月以降、再度、上昇傾向にあるとはいえ、世界的な株高の波に乗り遅れ気味です。こうしたことから、中国本土の投資マネーは、上海・深圳両証券取引所と香港証券取引所の間で売買注文を取り次ぐ株式相互取引制度「ストックコネクト」を通じて、香港の株式市場に流入し、株価上昇の一翼を担うことになったとみられています。

中国では、経済成長で投資家が大量の投資マネーを手にしたものの、規制金利が長く続いたほか、海外への資金移動には厳しい規制があることなどから、流動性や安全性、収益性を兼ね備えた投資先がなかなかみつかりません。こうした中、投資マネーは常に収益機会を求め、株式や金融商品にとどまらず、不動産やコモディティなども含め、激しい流入を繰り返してきました。今後も、有望な投資先に大量の投資マネーが殺到する状況が続くと予想されます。特に、中国景気の持ち直しだけでなく、世界の経済成長率が加速に向かうと予想されている一方で、米国の金融引き締めが緩やかなペースにとどまるとの見方が強まっていることや、人民元が堅調に推移していることなどを踏まえると、中国の投資マネーは、今後、不動産市場から本土の株式へ向かう可能性が高いと考えられます。そして、本国での投資が盛り上がることとなれば、中国本土株式には出遅れ感もあるだけに、世界の投資家からも注目が集まるようになると期待されます。

中国の新築住宅価格と株価の推移



中国のGDP規模と株価の推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。